



真宗大分

ビーコンプラザに響く念仏

親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け

大分教区 門信徒のつどい開催

八月二十九日、別府ビーコンプラザ・フィルハーモニアホールで「いま・ここを」と



お勤め(開会式)

もに・いきる」をテーマに「親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け 大分教区門信徒の集い」が開催され、教区内各地から一千人余りの参加者で賑わいました。

この門信徒のつどいは、教区基推の各教化団体(仏壮・仏婦・総代・仏青)が、それぞれ役割分担して企画・運営したもので、限られた準備期間と予算の中で創意工夫を凝らしたものとなりました。仏壮が担当する開会式、教務所長挨拶の後、親鸞聖人750回お待ち受け法要では正

第129号
創刊 昭和41年8月
発行所
大分教区基幹運動
推進委員会
〒874-0920
別府市北浜3丁目6-36
本願寺別府別院内
TEL 0977-22-0146



記念法話(田中誠證師)

信念仏偈(六首引)を、調聲人・巡讃に玖珠組仏教壮年会の会員が、各教化団体代表(各3名)出勤で勤め、名実ともに「門信徒の集い」の様相を呈しました。

引き続きの記念法話は、「親鸞聖人のお心を聴く」という講題で、速見組満福寺住職・田中誠證師が、教行信証の『総序』を御讃題に仏徳讃



会場全体

嘆のご法話をいただきました。昼食から午後のアトラクションにかけては仏婦の担当で、昼食時、ダーナ募金活動、昼食後に親鸞聖人と恵信尼公の結婚800年を記念して制作



話し合い法座

されたDVD・「親鸞さまと恵信尼さま」(中津組仏教婦人会連盟制作)を上映。美しい貼り絵をバックに七五調でお二人のご生涯が唄われる映像に、食後のひと時を過ごす参加者の皆さんは見入っていました。

総代会が担当した午後のプログラムは大原瑞雲師(大野組最乗寺住職)の座長による「話し合い法座」が行われ、シンポジウムの形式で、参加者の皆さんからも活発かつ前向きな意見や思いが飛び出す、とても有意義な時間が流れました。

最後の閉会式は仏青が担当し、これまでの形式的な閉会



コーラス隊演奏 (閉会式)

式ではなく、「印象に残る」ものでした。舞台緞帳が上がると、既にステージ上には一七〇名のコーラス隊が整列。耶馬溪組、下毛中祖、中津組、宇佐組、の寺族・門徒コーラスグループに加え、東九州短期大学、東九州龍谷高校の皆さんや教区仏青の有志も加わっての陣容。「旅ゆくしんらん」「しんらんさま」「念仏」「恩徳讃」の4曲を歌い切り、蓮の花びらを形取った紙ふぶきの舞う中、来年に迫った親鸞聖人750回大遠忌法要へ共に参拝しましょうと、感動の中に終了しました。

基幹運動のページ

「僧侶研修会」

7月10日土曜日の午後から、同朋専門委員会担当による基幹運動推進僧侶研修会が開催されました。今回の研修会は、第1期から第4期までの僧研をふり返った第5期僧研の初年度にあたる昨年の各組、教区での反省を踏まえて、特に「同朋三者懇とは?」「なぜ、僧研をしているのか?」と近年僧侶になった人たちから聞かれ、基本から説明するのが大変という意見から、教区で僧研開始以降に僧侶になった方々対象の、基幹運動入門講座的なものは開催出来ないだろうかとの協議を重ねました。

そこで今年度は僧研開催までの経緯を、実際に同朋三者懇に関わってきた方から具体的にお話していただくことと、

備後教区ですと関わってこられた現中央基幹運動相談員の坂原さんに講師をお願いいたしました。

次に、参加対象をどうするのか。せつかく具体的にお話したいだけに、対象を絞ってもいいのか。対象を絞らしたらどういう範囲なのか。等々。今回は、僧研が始まった年(1992年)以降に僧侶となられた方を対象にし、対象以外の僧侶の参加も可とすることにしました。

まず、1992年以降に大分教区内で僧侶となられた対象の方々を把握することにし、では案内状をどうお手元に届

けるのか…。今回は所属寺に一括で送付させていただき、各寺にはお手数をおかけいたしました。

「具体的な現実に学ぶこと」「差別の現場からの問いかけ」を坂原さんのお話の中からあらためて思われた方も多かったのではないのでしょうか。ちょうど4年前に第3期までの反省を踏まえた第4期僧研にむけての基幹運動のページの原稿があります。「最近大分に戻った若手僧侶から「同朋運動(基幹運動)」を話題に話ができません」と愚痴をこぼされたことがあります。先に、「信心の社会性」が共通のものとしてあるのかの疑問はこの言葉に表れているようです(真宗大分117号)。さて、第5期目となった僧研ですが、どうでしょうか。それぞれの問題として少しは向いて下さっているでしょうか。

先日、ある席で「誰が差別と判断してるんか」、「基幹運動はスパイ活動みたいだ」とまで言われました。運動のあり方を見直し、ずっと言われ続けている「一部の人の活動」から、もういい加減に脱却しましょうよ。と願わずにはおられません。運動そのものをふくめた見直しを、運動推進者だけでなく全体の問題として早急に行うべきであろうと、坂原さんがお話し下さった備後教区の住職の告発の言葉を聞き、4年前の原稿を眺め、先の発言を受け、その思いを深めたことでした。まず大分から始めようではありませんか。



親鸞聖人七五〇回大遠忌

お待ち受け法要実施状況

宇佐・院内組お待ち受け法要

特別記念講演に

『小沢昭一さん』

去る5月8日、宇佐・院内組は合同による大遠忌お待ち受け法要を宇佐文化会館で開き、約850人の参拝者があった。第一部では両組若年法中と尼子宇佐組長の導師による記念法要の勤行、記念法話は



勤 行



特別記念講演 小沢昭一さん

向曉浄念師、アトラクションには宇佐組「コール・ルンビニ」による仏教讃歌。第2部は俳優・小沢昭一さんを迎えての特別記念講演、特有の話芸は参集者を終始魅了にさせた。

深見組お待ち受け法要

去る6月26日(土)「深見コミュニティセンター」にて



勤 行



参 拝 風 景

開催。参拝者100名。深見組は、単独で「お待ち受け法要」が出来にくいので、午前中「組門徒総代会」を開催した。昼食時 ビデオ上映

中「お待ち受け法要」参拝者入堂(入室)。三奉請、表百、お正信のお勤め。全員声高らかにお経を称えた!!
ご講師は本願寺派布教使 井上正隆先生。

休憩時間には、田舎ながらのお菓子とお茶の接待。
来年の「大遠忌法要」に対する高揚がなされたと感じている。

岡組でお待ち受け法要

竹田市・豊後大野市(一部)・大分市(一部)・佐伯市(一部)・由布市(一部)の二十四ヶ寺で構成される岡組(志賀信之組長・西蓮寺)は、七月六日に安楽寺(緒方光見住職・大分市今市)で「親鸞聖人七五〇回大遠忌岡組お待ち受け法要」(岡組門信徒の集い・岡組仏教婦人会閩法の集いを併催)を厳修し、組内各寺院より三百五十名の参拝者で賑わいました。

会所となった安楽寺は、旧野津原町の今市地区にあり、ここは江戸時代の肥後街道宿



ご法話 (稲田静真師)

場町で、今も当時の石畳が残る往時を偲ばせる歴史ゆかしい場所です。
この日境内には三百名超の参拝者に対応すべく、本堂内に入りきれない方々の為の大型仮設テントと椅子を設営。

また、仮設テントの中で参拝する方々には、遠隔となる堂内での法要の様子等がよく見えるよう、テント内に大型液晶テレビを設置し、堂内の様子を生中継する試みも行われました。

法要は『正信偈作法第二種』で勤まり、組内法中による行堂も行われました。法要に続



二胡演奏(姜さん)

9月2日(木)「九重文化センター」にて開催。参拝者433名。

玖珠組お待ち受け法要

いての法話は、本願寺派布教使・稲田静真師(大海組光国寺住職)が、「子や孫に残す本当の財産」という講題で、念仏相続の大切さをお話し下さいました。

他にも地元仏婦による踊りの披露やミニコンサート等も行われ、参拝者の皆さんは楽しくも充実した「お念仏の一日」を過ごしていました。



参拝者風景

5月27日に開催された「九州地区法要」(マリンメッセ福岡)のお荘厳を再現しようと、お名号の右側にスクリーンを設置し、プロジェクターで聖人のご影を映し出しました。

玖珠組雅楽会の演奏の中で導師登礼盤。結衆6名にてお正信偈六首引のお勤め。ご講師は本願寺派布教使 田中誠證先生。午後は、二胡奏者 姜曉艶さんのミニコンサート。仏教讃歌の演奏、ユーモラスなおしゃべり。楽しい時間を過ごしました。

およろこび記事

〔住職就任〕

内藤 昭文

下毛中組 法行寺

(平22・6・2就任)

甲斐 智光

国東中組 光源寺

(平22・6・4就任)

榎溪 孝文

玖 珠組 満福寺

(平22・6・18就任)

おくやみ

次の方々のご逝去されましたので、生前のご苦労を偲び謹んで敬弔の意を表します。

○永蓮 冬子(平22・5・11)

国東中組 永蓮寺 前坊守

○黒田 一止(平22・6・24)

中 津組 西蓮寺 前住職

○森 道元(平22・7・9)

玖 珠組 教念寺 衆 徒

○河野マサゴ(平22・9・14)

深 見組 西照寺 前々坊守

編集後記

長くて暑かった夏が、やっと終わろうとしています。と書きましたが、この原稿を書いている時点(九月上旬)では、日中はまだまだ真夏日が続いています。一体この暑さはどこまで続くのか…。

このような異常気象は、私たちの生活から来る環境破壊の結果であることは、もう否定できないと思います。「人間が」快適で便利な生活を追求した、いわば「エゴ」の果てに地球が悲鳴を上げている。だから、これからは「エコになるう」と様々な取り組みが社会的になされています。

先日、エコカーの購入促進のための補助金制度が終了しました。終了直前には、駆け込みでエコカー購入者が殺到したそうです。私は手放しで喜べませんでした。何故ならその裏には、補助金受給の条件として大量の旧型車が自動車解体業者に殺到したからです。あまりにも大量なので、

解体業者が処理するキャパシティを超え、車体を解体しての部品の再利用や、リサイクルの為の分別もできず、仕方なく片っ端からそのままスクラップ処分されています。樹脂や金属やゴムで出来た塊は、一体何処へ行くのでしょうか。

「煩惱具足の凡夫 火宅無常の世界はよろずのことみなもてそらごとたわごとまことあることなきに…」とは宗祖親鸞聖人のおことばですが、一連のエコ対策とその実態も、まさに宗祖聖人さまのお示し下さった通りです。そのような中で、聖人は「ただ念仏のみぞまことにておわします」と続けています。

いいことしてるつもりだったが、依然として延々と迷いの中の「私」に、「気づけ、任せよ」と阿弥陀さまは働いて下さっています。

だからという訳ではありませんが、私は十九年前の車に、しぶとく乗り続けています。

